

第203回 番組審議会

1. 日 時 平成23年6月14日（火）12:00～
2. 場 所 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウィング 3階「星雲」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 10名（欠席委員数 2名）

出席委員（敬称略）

中村 慶久（委員長）
三浦 宏（副委員長）

—以下50音順—

久慈 浩介
斎藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
藤原 保雄
村上 幸子
八木橋 伸之
吉田 浩次

○ 会社側出席者（7名）

佐藤 滋樹（代表取締役社長）
小原 忍（専務取締役）
藤澤 利憲（常務取締役）
前田 秀男（取締役編成技術局長）
藤原 銀司（取締役営業局長）
田山 裕明（編成技術局次長兼編成部長）
鎌田 淑子（めんこいエンタープライズ 制作部 主任）

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題 はちきゅん

平成23年5月21日(土) 12:00～13:00放送

5. 議 事 概 要

今回は5月21日に放送した「はちきゅん」を審議しました。出席した委員からは「お昼の時間帯でターゲットを女性に絞った番組作りは面白い」、「地元出身のお笑い芸人にも期待をしている」、「ミサンガ・プロジェクトなど震災復興への取り組みを取り上げていたのが良かった」など番組を評価する意見がありました。

また一方で「コーナーがたくさんあるので、メリハリを付けた方がいい」、「内容が他局と似ている、もっと独自性がほしい」「番組がスタートして間もないので、今後に期待する」などの意見がありました。

6. 議事

○事務局

それでは、ただいまより第203回番組審議会を開催致します。

本日ご欠席の委員は、斎藤純委員、役重委員です。

今回の議題は、5月21日に放送されました「はちきゅん」です。本日は編成部長の田山と、ディレクターを務めました、めんこいエンタープライズ制作部の鎌田が出席しております。

それでは、中村委員長よろしくお願ひいたします。

○中村委員長

それでは議事に入ります。田山さんと、鎌田さんから説明をお願いします。

○田山部長

それでは今回審議いただきます「はちきゅん」についてご説明させていただきます。「はちきゅん」は今年の3月まで放送していました「あなろぐ」という自社制作番組の終了に伴ってスタートした番組です。放送時間も同じ土曜日の昼12時から午後1時までの1時間となっています。「あなろぐ」の番組終了につきましては、完全デジタル放送移行の年の3月一杯を目処に終了と考えてお

りましたので、「はちきゅん」の番組については早い段階からスタートの準備を進めてきました。

タイトルは完全デジタル移行に伴ってめんこいテレビのチャンネルが8で統一される事と、現在めんこいテレビが展開している、「きょうも胸きゅん めんこいテレビ」のコピーを合わせた形で“8”と“きゅん”「はちきゅん」と決めました。

出演者に関しましては「あなろぐ」よりターゲットの年齢層をもう少し上げたいという意向で、千葉絢子アナウンサーをメインMCに起用しています。そして、吉本興業の“アンダーエイジ”というお笑い芸人を起用して、話題作りと共に番組の盛り上げを図っています。“アンダーエイジ”の二人の起用は、吉本興業が全国の都道府県全てに芸人を住まわせて、地元で活動させるという構想が出た折に、いち早くめんこいテレビが手を挙げ、決まりました。「岩手に住みます芸人」という事で、二人は実際に岩手に住んでおります。一人は石鳥谷町出身でもう一人は山形市出身です。そして、中継リポートもスタジオ展開もこなせるふじポンをメインMCの千葉絢子と“アンダーエイジ”の間に配置してスタジオを構成しています。

番組は4月に開局20周年特番と一緒に華々しくスタートしようと考えていましたが、震災の影響もありましてスタジオのセットやコーナーのタイトル等いろいろな所が4月スタートに間に合わなくなりました。その結果、4月はネタ的にも内容も、当初の考えとは全く違う形で放送せざるを得ないという状況になりました。“アンダーエイジ”が初めて出演したのは5月7日でしたので、今回審議していただく「はちきゅん」は、彼らが出演し始めてから、3回目の放送という事になります。ようやくそれぞれのコーナーの形が整ってきた放送回ということになりますが、外に中継はまだ出せていない状況でした。その中継も今度の6月18日放送分から出せる事になりました。

番組自体がスタートして間もない分、これからいろいろなご指摘をいただきまして、具体的に番組に活かしていけるところが、まだまだ沢山あると思っていますので、本日はよろしくお願ひいたします。

番組の内容につきまして、チーフディレクターの鎌田からお話させていただきます。

○鎌田ディレクター

「はちきゅん」は、私の他に2人の男性ディレクターと一緒に作っています。

田山の説明がありましたように、「はちきゅん」を立ち上げる際に東日本大震災を受けて、どのように展開していったらいいのか、華やかなセットも衣装も控え目にして、コーナーも震災対応にした方がいいのではないかと悩みました。しかし、被災者の皆さんや県内の皆さんから、テレビを見て笑いたい、笑顔が欲しいという声を聞く機会がありまして、いろいろ悩んだ結果、決心して皆さんにご覧いただいたような番組で展開してスタートする事にいたしました。

「はちきゅん」ではいくつかのコーナーに分けて番組を展開していますが、視聴者層として女性を意識しています。土曜のお昼 12 時にテレビを見ている年齢層として、20 代、30 代、40 代の男性はなかなかテレビをご覧になっていないようなので、ターゲットを絞り込んで女性に向けてメッセージ性の強いものを作りたいと思ひまして「はちきゅん」を始めました。

“解体新書”というコーナーでは、出来る限り女性が好きそうなテーマを採用して進行しています。“男塾”というコーナーは、通常ですと女性のリポーターの出演が一般的なのですが、俗にイケメンと言われている男性陣を起用してさまざまな県内の情報を伝えていきたいと思っています。その他にも心理チェック、占い等なるべく女性に見ていただけるような、コマーシャルチャンスも跨いでチャンネルを変えないで見えていただけるような演出をしています。さらに、忙しい女性も家事をしながら簡単に現金が貰えるようなプレゼント企画の演出もしています。

千葉絢子アナウンサーの衣装が着物というところも女性を意識した結果です。番組がスタートしてようやく 1 ヶ月が経ち“アンダーエイジ”もテレビデビューをして 1 ヶ月です。失言や失礼な事がたくさんありますが、千葉絢子とふじポンと私たち皆で、めんこいテレビファミリーとして盛り上げていきたいと思っています。

新しい挑戦ですので、今日は皆様からのご意見を伺って、これから成長していきたいと思っています。

○中村委員長

それでは委員の皆様からご意見、ご感想を伺っていききたいと思います。
藤原委員からお願いします。

○藤原委員

番組のターゲットの網からもれている立場なので、適切な提言や、的確性の

ある指摘があまり出来ないかとは思いますが、今お話を伺って分かりました。震災の影響もありましたが、それを乗り越え、新しい試みでこれから新しい番組を作っていこうという段階にある番組で、育つ余地がある番組だと思いました。

正直言いますと、あまりにも盛りだくさんの内容で、いくつかコーナーに分けて作っているという事は感じました。心理チェックとか占いとか、確かに今の女性をターゲットしているということで、理解出来ました。素材があれこれあり過ぎて、見ている方としてはちょっと整理が付かないという印象を受けました。

ひとつ印象深かったのは「浜のミサンガ」という取り組みです。これはどこかの新聞で見えて、すごくいい話だと思っていました。それを取り上げて紹介したのは非常にいいと思います。これからの番組作りでも、復興絡みのものを、いくつか取り上げて行って欲しいと思います。復興は先の長い話なので、私はターゲット層ではありませんが、そこは私も関心をもって見ていきたいですし、期待したいと思います。

3ヶ月经って、一般的には世の中が少し復興の芽が出てきたと思えるようになる一方、義援金が全然届いていないなど、非常に混沌とした状況の中で、テレビも震災一辺倒の番組ではもたない。こういったバラエティ番組も少しずつ復活してきている流れの中の番組だと思います。

これからの期待しています。試行錯誤をしながらいい番組にしていきたいという事だと思いますので、めんこいテレビの代表的な番組になるように期待しております。

○中村委員長

菅原委員お願いします。

○菅原委員

2回も続けて欠席しました。この間バタバタしておりまして、前回の議題の番組も拝見しましたが、本当に報道関係者は大変だったと思います。前回こそ出席したかったのですが、来れませんでした。

今もあちこちで、仲間の復興支援を僕が司令塔のようにやっていますが、そこでいきなり今回の番組を見たら「あれ、もうこんなに平和になったのか」みたいな感じがしました。それはそれで他局もそうなのでいいのでしょうけれど、

僕個人としてはインパクトがあまりなかった。あまり笑っている場合ではないというような認識です。特に皆さんご存知の通り、原発事故の問題が非常にヒシヒシと押し寄せてきています。NHKが特にそうですが、原発に関する事実を隠すような番組が多いということがありまして、僕、個人としては今、この時点でこのような番組を見てもあまり面白くはないと思っていますし、そんな事はどうでもいいという気持ちもあります。

だからと言って全部が全部そうならマズイ。僕らは別のジャンルで「今だからこそジャズを」なんてやっています。それと似たようなもので、皆で落ち込んでいても始まらない。全国から“ベイシー”（菅原委員経営のジャズ喫茶）にバンバン来ています。被災地からオーディオマニアで津波に流された方もいらして、久しぶりに聞いてスカッとしたという人も毎日何人か来ています。我々の立場としては、こんな時だからこそいい音楽を本格的なオーディオでとか、言いたいですし、今出ている“ステレオサウンド”という専門誌もそういうタイトルで昨日発売になりました。こじつけかも知れませんが半分はそういう事を人は望んでいます。いつまでも耐えられないものです。僕もさすがに震災後何日間は、ロウソクの火でタバコを吸って店の中で暮らしていましたが、ある時から急にまたやりたくなるんですね。

ですから人は意外としぶといと思って。何とか沿岸地方もあの通りしぶとい人たちがいるから、原発以外に関しては何とか皆で、そのうち雑草のようにだんだん再生すると思います。原発だけは次元が違いますので専門家の方にお任せします。

鎌田ディレクターには悪いのですが、そんなに楽しめなかったというのも無理もないと思います。今、ちょっと一関も大変でバタバタしていますので、そんな感じで正確な論評は八木橋委員してくださいますので、きょうはそんな所で勘弁して下さい。

ご無沙汰しておりまして、すいませんでした。また頑張りますので、よろしくをお願いします。

○中村委員長

八木橋さんをお願いします。

○八木橋委員

私も全く対象外でして、特に中年以上の男性はあまり意識して作っていない

というのは良く分かりました。何となくただ見てしまったという感じになってしまいました。それも私の責任ではないとは思いますが、我々中年男性の、中年というよりも老年なのですが、そういう年代では2人の掛け合いとか、そういう所の間合いの取り方とかよく分からないところがあるので、単純に気付いた所だけいくつか述べてみたいと思います。

番組の構成の中でけっこう宣伝が出ているのですが、そうするとスポンサーの本来の宣伝と区別がつかないので、どこまでが番組でどこまでが宣伝なのかが良く分からない。昔、そういうテレビの作り方があったのですが、非常に見にくいということで各社やめた経緯があります。これはまた同じような似た作りになっているが、何か意図があるのでしょうか？

それとコーナーの出だしがハッキリしないので、どのコーナーの部分で何を言っているのか、その辺がもう少し分かりやすい方がいい。

内容的にはスピリチュアルとか占いとか、その辺は非常に女性が興味のある事だからそれはそれでいいのだと思います。家のかみさんはオーラの何とかとか、江原啓之ばかり見ていました。私は絶対見ないのですが、そういうのは女性向きだとは思いますが。

もう一つ気がついたのは“SEV”（セブ）という商品の宣伝があったのですが、肩こりとかに効くと言っていました。他には“子顔ちゃん”とかいう「水」で顔が大きくなったとか小さくなったとかいう商品の紹介がありました。あれは紹介の仕方によって薬事法にひっかかるので、飲んでみたらこういう体験をしたという紹介はいいのだけど、何々に効きますよと言うとちょっとまずいと。あの辺が見ていて気になりました。“SEV”が特許を取ったというのはたぶん機械として取ったのであって、医療用具で取ったのではないのでしょうか。医療用具で取ってあれば医療用具として売れるけど、あの辺がテレビとしてはあれ以上強く言うとまずいという事になると感じました。

見た中でいつの間にか時間が経ってしまったという感じで、情報番組としてはいいのかなとは思いますが。ただあまり中年男性向けではないという感じがしました。

○中村委員長

斎藤委員お願いします。

○斎藤雅博委員

土曜日 12 時という時間帯で見て、ターゲットがどういう層なのかと思ったのが最初の感想でした。先ほど説明を受けて「ああ、やっぱり」という事でした。

ハッキリ言って私が興味をそそられる場面は殆どありませんでしたが、塗り絵の心理カウンセリングのところと、ミサングプロジェクトのコーナーの 2ヶ所だけは、今回の番組のなかで比較的関心を持って見る事が出来ました。塗り絵の描き方とか、子ども達の絵を見て、今回の震災の心の傷はすごく大きいと感じました。ミサングプロジェクトの紹介は被災地応援として良かったと思います。元気プロジェクトコーナーなので、是非あのような方たちを、特に被災地の方たちを応援できるコーナーを継続していただければと思いました。

番組は、あまりにも目まぐるしい感じで、ちょっと付いていけないと思いました。もう少しゆっくりめでも良かったと思います。おそらく“アンダーエイジ”の 2 人も育つにつれて番組に慣れ、こなれてくるのだと思います。そういった意味で応援したいと思います。あの 2 人を上手く使っていけば、1 人は地元出身ですので、そういった意味でも地元の芸人を育てる事にもなります。地元の人が出ているというだけで、やっぱり我々見る側も「ああ地元出身だな」となりますので、2 人をいろんな場面で使って、盛り上げていけば、我々のような男性層も多少は見れるものになるのではと思いますので、よろしくお願ひします。

○中村委員長

村上委員お願いします。

○村上委員

私は、少しは番組のターゲットに入っていますが、土曜日のお昼の番組という事で、気楽に見られる番組という路線を踏襲していたと思います。確かに土曜日、小さなお子さんがいるお家は、ご飯を食べさせながらとか、午後に何か用事のある奥様方とか、女性は何かと忙しい時間帯です。でも週末のホッとした感じでありながら過ごすその時間帯に対して、非常にターゲットがハッキリした番組だと思います。

女性は何かやりながらテレビを見るのが得意ですから、じっくり見るというよりは何かをしながらというリズム感を意識していたと思います。ひとつのコーナーが 3 分位でしょうか。それもターゲットにはすごく合っていると思います。私は物を何かやりながらテレビを見るのは得意ではないのですが、あれだ

ったらお茶を入れたり、何かを洗ったりしながら出来るというリズムがあって良かったと思います。

女性を意識したいろんなキーワードが盛りだくさんに入っていたと思います。まず、“解体新書”というコーナータイトル自体も、雑誌、女性誌などでよく使う感じですが、これ自体は非常に堅苦しい字ですが、タイトルとして分かりやすいインパクトがあると思います。そこで、まず肩凝りで見せる。次はカウンセリングですとか、小顔水など。この辺りでキーワードをしっかり押さえていると思いました。しかも皆さん地元の盛岡の皆さんですよ。カウンセラーとか占い師さんとかお店も。盛岡でもこういう人がいるという事を、私も含めて、地元の情報として初めて知った方もたくさんいると思いますが、そこは非常に新鮮なものを感じました。

ただ少し大サービスし過ぎかなと思ったのは、9か10のコーナーがあって、これが1時間でテンポ良くいくにしても、どこかで強弱をつけて、特集のようなものと小さなコーナーがあると、もう少し違うインパクトで見られたのではないかという印象が残りました。

吉本のローカル芸人が各県にいるそうですが、“アンダーエイジ”の2人がいる岩手が一番頑張っていて露出していると聞いていますので、さすがめんこいテレビだと思います。

20代、30代の男性が実際に被災地に行って、しかも彼らは芸人だけど、違う触れ方を被災者としていたいというのがよく分かりました。これから二人があちこちに行って、あれがかえってリアリティーとして感じてもらえるようなればすごいいいと思います。これからひと月、ふた月と番組をやって、それからいろいろと乗ってくると思いますので、これからの期待しています。

○中村委員長

東海林委員をお願いします。

○東海林委員

先週の土曜日に材木町のよ市で、千葉アナとふじポンさんが、実際にミサングを売っている所にたまたま遭遇しました。千葉さんから「はちきゅん、よろしくをお願いします」と言われた時に、今日はどうしようかと思いました。実際にミサングは買いました。私も本当に応援したいと思っていますし、フェイスブックの方で既にたくさんの方にミサングプロジェクトをシェアしていただい

ています。そうしたら何とMITの社長さんが事務局長ですよ。それだったら、もっと番組の中で押してもいいのではと思いました。

番組自体は「はちきゅん」に限らず、夜にオンエアされたものを録画しておいて昼に見ることがあって、その時に軽い違和感を覚える事があるのですが、実は今回の「はちきゅん」に関してはちょっとそんな感じがしました。何が違和感なのかを考えると、お昼の番組なのに、どちらかという夜バラエティでもいいのかという部分を感じました。お昼の12時の番組なのであれば、どこをどのようにすれば軽くなるのかは分かりませんが、もう少し軽くてシンプルな部分があってもいいと思います。どこが夕方、夜バラエティのように感じたかといいますと、メインになっている色が紫と黒です。女性をターゲットにしているという事であれば、紫は確かに女性の色なのでいいと思うのですが、そこに黒い色を持ってきて、千葉絢子さんが着物で出演。そこに色んな要素が重なっていき、ひとつの事を紹介するのに、前ふりで“アンダーエイジ”のやりとりがあって、その前ふりが長くて、しかも画面と画面の切り替えもけっこう所々凝っています。もっと軽くポンポンとテンポよく行ってもいいのかなという場面を所々に感じて、そういうのが総じてお昼の番組というよりも夜のバラエティのような印象になったというのが素直な感想です。

実際に番組を見て、“SEV”が欲しいと思いましたし、盛岡で買えるのだなと思いました。小顔にシュシュとやってもらえるなら、それも欲しいと思いました。ミサンガも買いました。そういう意味では需要に合致しているかもしれません。

ミサンガについては、阪神大震災の時にタオルでウサギを作って復興支援のために販売するというのがあって、それに比べるとずっとミサンガが素敵です。買いたいと思います。魚の網で作ったというのがすごく心に響きます。コマーシャルの歌もいいです。めんこいテレビさんと共にミサンガの仕事プロジェクトをもっと応援していきたいと思いました。

○中村委員長

久慈委員お願いします。

○久慈委員

年齢は合っても男性なので、僕はターゲットから微妙に外れていると思います。「あなろぐ」を見慣れていたので、逆に僕にとって全く違う番組になっ

たと感じました。今日、話しを聞いて“なるほど”とすごく理解できました。なぜ千葉アナは着物を着ているか、という事から始まってスピリチュアル、それは夜だろうという事なのですが、それが女性だったら皆が納得するという事があります。

うちの奥さんが前の「あなろぐ」見ていた時に、JRの旅の企画とか、いろいろな所が女性をターゲットとすると、ちょっと違うという雰囲気がありました。今回、こういう内容であれば女性を見るのではないかと思います。ターゲットがちゃんとしていればいいと思います。僕らはリアルではよほどの事がなければ見ません。女性がターゲットというのはすごく良いので、それで突っ走った方がいいと思います。

“アンダーエイジ”は僕も知っていたので、「吉本の岩手に住みます芸人を使います」という事はすごく理解できました。彼らは女性受けするのかな？もう少しイケメンの方がいいのかとか、爽やかな方がいいのかとか、僕は女性ではないので分からないですが、女の子にしたらいいのかなとチラッと思いました。そこで佐々木敦夫（「あなろぐ」に出演したイケメンタレント）の顔を思い浮かべた僕も、まだまだかなと思いましたが、何となくそういうキャラでもいいのかと。今日話しを聞いて。僕は彼らの乗りがいいけど、女性ターゲットだったらもう少しイケメンではないかと考えました。彼らが今、頑張って被災地を支援してくれているので、それに対してはやっていただいても結構です。でも何回かに1回はイケメンとか、菅原委員のような素敵なオジさまのキャラが入ってくればいいのかと。これはあくまで男の意見だから鎌田ディレクターの趣味があっちだったらそれでいいです。いずれ正解はないのでターゲットを狙ってやる方がいいような気がします。だからこれはこれで突っ走った方がいいと思いますので、ぜひ頑張ってください。

○事務局

吉田委員をお願いします。

○吉田委員

皆さんもおっしゃっていましたが、昼の番組のバラエティというのは、結局いかに楽しませるかというのがポイントだと思います。番組の中味を見ておりまして、また説明を聞きまして、よく一生懸命頑張ったというのがヒシヒシと伝わって来ました。

実は私はこの番組を見るにあたり、たまたま今回女房と観る機会がありまして、どんな話しがあったかといいますと、やはりバラエティというのは発想の大胆さに生命線があるということです。そういう点ではちょっとドキッとするような事や、オリジナリティーがなかった。大体横並びといいますか、同じような他局の番組と似たり寄ったりという感じでした。どうしても他局との比較になってしまうのですが、バラエティといいますと、どうしても若い人が中心になってしまいがちです。ターゲットは女性ということでしたが、年配者の方の中にはいらっしやいます。年配者の人たちにとっても魅力があって、引きつけられるといったような配慮も重要なポイントのひとつだと感じました。

できれば、もっともっと生活に密着した地元情報というものを入れられないのか。視聴者が「はちきゅん」を待っているくらいのような情報を出せないのか。そんなものが組み入れられたらいいなと思います。私自身としてもそうなのですが、土曜日の昼に放送されるわけですから、来週のこの地域の中でどんな情報があるのかというのを、皆求めていると思います。来週1週間の情報として、いつ、どこで、何が、こんな話題が、こんな所にあるよというような情報が必ずセットされている、それが次週にも繋がります。そういう意味で、その中に旅行、温泉、美術館、季節感とかいろいろな事を含めて、番組で紹介できたらいいのではないのでしょうか。1時間の番組というのはどうして飽きてしまってチャンネルを変えてしまいます。12時から始まって1時までの1時間。12時半ぐらいには次は見逃せないとおきの情報があるというように、意識的に必ず組み入れて行く。そのようなことを番組構成の中でやられるといいのではないかと思います。

先ほど、出演者の問題についていろいろありました。私も最初は、何となくですが、違和感があるかなと思って見ていました。芸人さんがいて、ふじポンさんの明るいテンポがあって、何となく落ち着いて上品な千葉さんがいる。率直な感じとして、こういうアンバランスな状況が非常に良いと思いました。

これからバラエティや「はちきゅん」を見たいというようにしていくためには、次から次へと新しいものを組み入れて行くということが大きなポイントだと思います。被災地復興の場面場面のシリーズとして、元気印をテーマとしてできるだけ繋げて行って欲しい。今回のミサングだけではなく、必ず元気印があると思います。それらをうまく組み入れて「はちきゅん」の中には沿岸部で、いろいろと頑張っている姿の場面場面での変化が必ず見られるぞ、という事が魅力付けとしてあったらいいと思います。

○中村委員長

三浦副委員長お願いします。

○三浦副委員長

非常にいろんな話題を取り込んだ番組で楽しく拝見しました。冒頭、女性をメインターゲットにするというお話もお聞きしまして、そういう事だと今確認しました。

生活情報番組という事で、情報の質と量、特に質が問われると思います。盛りだくさんになっていて、それをどう評価するのかだと思っていました。衣・食・住、それから医療、観光、趣味などいろんなテーマがたくさんありますので、そのテーマを各回毎にローリングしていくと、番組が常に興味をもって見られるのではないかと思いました。

新聞社の方にお聞きしますと、全国紙の中でも地方分の記事ですとか、地方紙の場合は非常に詳細な地域ニュースがあります。その部分は非常に多くの読者がいるという事で、そこが目玉になると聞いています。地域ニュースをどれだけ充実させるのが大事だと思ってしています。地域固有の情報をできるだけたくさん盛り込んでもらえれば、固定的なファンが出てくると聞いています。

復旧の関係で会社に長期間泊まりこんで、非常食とかカップラーメンの生活が続きましたが、先般の健康診断で意外にも健康診断の結果が非常に良かったのです。その理由として、私自身も盛岡の出身ですが、毎日、中津川沿いを通勤ルートにして地元の食材を食べ、南部美人をよく飲むというような、地産地消の生活が健康に、意外にいいのではないかと思います。そういった事をいろんな人に会ってPRしています。やはり育った環境の所で、その物を食べて飲むのが非常にいい。まだまだ知らないものがたくさんありますので、この番組を通じてまた深めていきたいと思っています。

最後に申し上げた方がいいのか、最初に言った方が良かったのか、菅原委員の方からあった原子力の問題、節電といった問題、非常にご迷惑をおかけしています。

これはお詫びするしかない事です。私ども電力会社に勤務する人間としてできるだけ情報公開を徹底していく事だと思っています。毎日、報道されていて、議論もポイントも整理されてきていますので、いい機会として広範な論議が必要だと思っています。

今は私が何か言うと釈明、言い訳、強弁となりがちなのであえて申し上げませんが、いずれにしても大変な不安とご迷惑をおかけしているという事については、そこに勤務する人間として大変申し訳なく思っています。

原子力の問題はどう制御するかとか、安全保障の問題とか、エネルギーをどう確保するかという、いろんな難しい問題があります。それに加えてこうした事故があった場合、広範な問題について取り返しがつかないという事があります。取り返しがつかないからこそ完全に制御していくという事で今までやってきましたが、実際に事故が起きてしまった。非常に厳しい状況になっております。

こうした厳しい話題を「はちきゅん」で取り上げては、番組がなくなる可能性がありますので、取り上げるのをやめてほしいとは私は言いませんが、間接的に食の安全とか、そういった事で取り上げていただくのは時節柄いいのではないかと思っています。私自身は福島のものも喜んで食べています。不健康な生活の方が問題ですけれども、地元の物を食べている分には問題はないと思っています。

最後に和服姿の千葉アナウンサーはいいなと思って、さらにファンになりました。ふじポンさんは私どもが番組でお願いしている部分もありますが、個人的には、ふじポンさんよりも千葉アナウンサーの方がいいです。

○中村委員長

私もどちらかという対象外ですので、拝見した時に私の趣味ではないと思いました。あの時間帯は比較的私も昼食を取りながらいろんな番組を見ています。たぶんチャンネルを回さないと思っていました。今日、制作の意図をうかがいましたので、私は範疇に入っていないのかもしれませんがとも思いました。

感想をいくつか述べます。育てるという観点からお聞きいただければ有難いのですが、全体として、最初の“解体新書”のコーナーが非常に長くて、最後の方に生CMがあつたりして、尻切れトンボになってしまった感じがありました。もう少し大船渡の何か、他のことも含めて紹介できなかったのか。そんな事を感じました。

もう一つは情報番組でお昼ですので、珍しく女性向きにしては食べ物がなかったですね。山海漬のような要素も少しあった方が、情報番組にしてはいいのかなあという気がしました。見ていると、本宮地区の店が多いです。めんこいテレビ界隈の店ばかり紹介しているという感じがあって、もう少し取材範囲

を広げていただきたいという気がしました。

出演者も最初見たときはバラバラで「あれ」と思ったのですが、2回、3回見ていくうちに「ああ、これもありか」という感じがしました。ちょっと気になったのが“アンダーエイジ”の方が、わりとテーブルに寄りかかっているんです。それで何かを言われると顔をふせてしまって、姿勢が悪いのが見えて気になりました。

これからですので、どちらがボケでどちらが突っ込みか分かりませんが、やるにしても前を見ながら上手くやっていくのがいいのではないかという気がしました。2人は今、張り切りすぎるほどの状況で今はやっていますが、落ち着いてやるようになったら、非常にいい2人になるのではと期待しています。

一番、私が気になったのは“解体新書”の中で紹介された“SEV”と“小顔ちゃん”、番組を見てもなぜ効くのか科学的根拠が分からない。私もインターネットを見ましたが、片方は詐欺まがいの事も書いていますし、そういう物を放送としてメディアが取り上げた場合、問題が出てくる可能性がある時にはどうするのか。もし、取り上げるのであればきちんとこういう理由で効果があると示してほしい。特に“小顔ちゃん”というのは本当に顔が変わったのかどうかも良く分からなかった。もう少しきちんと比較対応させていただければ分かったのかもしれない。ただ見ているだけでは、効いているとは思えなかった。その辺がちょっと気になりました。取り上げるのならばきちんと証明をしないと、いかに主婦層とはいえ失礼ではないかという感じがしました。

もう一つは手相の所です。女性の方は好きなのでしょう。私は手相に興味はあるけれどもあまり詳しくは知りません。あの絵を見せられてどの線が何の相なのかよく分からない。いろいろ言っはいるけれども、全然きちっと示してもくれない。あれは不親切なので、今後も取り上げる機会が多いと思いますので、「この線がこうだからこうだ」という事をちゃんと説明していただいた方がいいと思います。そういう意味での時間の取り方を考えて欲しいと感じました。

これからという事でもありますので、今後どのように成長するのか。努めてあの昼の時間帯を見ていきたいと思いますので、ご努力をいただければと思います。

それでは、欠席委員からのレポートがありましたらお願いします。

○事務局

本日は、ご欠席の委員のレポートはありません。

○中村委員長

前田編成技術局長から放送法改正に伴う「放送番組種別公表制度」について説明があるそうですので、お願いします。

○前田取締役編成技術局長

昨年の12月に60年ぶりに放送法が大幅に改正されました。それを私達は改正放送法と呼んでいます。今年3月31日から施行されています。その改正放送法に新たに盛り込まれたものとして「放送番組の種別の公表制度」というものがあります。我々、総合編成をする民間放送事業者は、「地上基幹放送事業者」とされ、番組の種別を「報道、教育、教養、娯楽、通信販売、その他」の6種類に分類し、あらたに番組審議会の中で報告させていただき、同時に、一般にも公表する事が義務化されました。

具体的には、4月から9月分を集計して10月の番組審議会でご報告させていただき、10月からの6ヶ月分を4月の番組審議会でご報告させていただくことになりました。これはすぐに実施する事になりますので、最初のご報告は今年10月の番組審議会でご報告させていただく予定にしております。

この報告をするにあたり、事前作業として、番組種別をどう分類するか、いわゆる局のルール、分類の基準と申しますか、それをまず策定しなければなりません。その基準については、番組審議会に諮問しなさいとなっております。つまり、番組種別の分類基準は、番組審議会からの答申や意見を反映させた形で策定することとなっております。

これから具体的な作業に入りますが、8月は休会予定ですので、9月の番組審議会でご報告の基準をお示しすることになるかと思っております。それを基に今年10月の番組審議会でご報告させていただくこととなります。

実は、集計は全ての日を計算するのではなく、それぞれの月の3週目をその月のサンプルとして集計することになっており、それも法律で決まっています。その中で、めんこいテレビは「報道」が何時間、「教養」番組が何時間と、それぞれ集計した結果をこの審議会でご報告して頂くこととし、併せて一般にも公表します。基本的にはホームページを使って公表される事になると思います。委員の先生方には先ほど申し上げた「基準の策定」作業で、少々ご負担をお願いする事になるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

(この趣旨は?)

例えばですが、奇しくも先ほど八木橋委員からご指摘があった様に、今回の「はちきゅん」という番組の中に、いわゆるパブリシティー（記事体広告）があったり、キー局の番組の中に通販コーナーがある等、こういった種類の番組なのか分かり難いということがありました。そういったことが発端になっていると思います。また、番組の種別についても、一般視聴者が考えているイメージと、我々放送事業者が考えていることに乖離があるとの指摘は以前からありました。そこで番組の中でも宣伝的な部分がどれだけあるのか、さらに番組そのものがどれに分類されるのか、それをより客観的にすることが目的だと思います。

○菅原委員

議長、議題とは関係のないことなのですが、原発問題に関するマスコミ報道の全般について、私の意見を述べたいと思います。

○中村委員長

菅原委員、どうぞ。

○菅原委員

福島原発事故に関する報道なのですが、新聞もテレビも東京電力や政府の言っていることを殆どそのまま伝えるだけで、実際に起きていることを報道していなかったと思います。事実は後になって分かりましたが、外国のメディアは早い段階から伝えていたそうですから、報道機関が事実を知らなかった筈はなく、意図的に報道しなかったとしか考えられません。これでは戦前の大本営発表と同じことで大変な問題だと思います。

震災直後の計画停電や、節電等の報道に関しても、無批判に伝えるだけで、結果的には「原発が止まると大変なことになるぞ」ということで、原発推進の片棒を担いだことになりました。実際には、計画停電は必要なかったことが後になって分かりましたが、こういった偏った報道を続けていると、報道機関が国民から信用されなくなる恐れがあるので、考えて欲しいと思います。

○中村委員長

菅原委員、ありがとうございました。

他に何かございますか？

無いようなので、以上で本日の議事はこれで終了とさせていただきます。
ありがとうございました。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は6月25日（土）朝4時42分から「めんこいテレビ
番組リポート」として放送いたします。

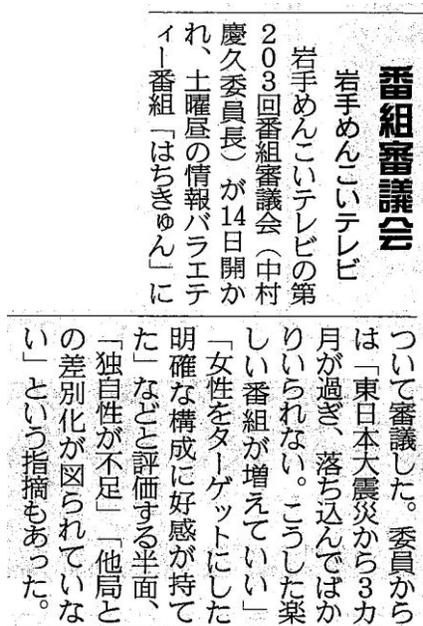
次回は7月12日の正午より、こちらのホテルでの開催となります。

それではこれで番組審議会を閉会させていただきます

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置
特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び
年月日

平成23年6月15日（水） 産経新聞 東北版



平成23年6月25日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番組レポート」内で放送

据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし